

学校関係者評価 報告書

～平成27年度～

学校法人 日本航空学園

(専) 日本航空大学校

1 学校関係者評価委員会の目的

学校関係者評価委員会は、日本航空大学校（以下「本校」と略す）の運営状況（教育理念・目標、教育活動の現状や課題、経営状況、社会貢献など）について学校関係者より意見を聞き、その評価に基づき学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価委員会委員名簿

| 規定第2条（構成） | 所属 | 名前（敬称略） |
|-----------|--|-----------------------------------|
| 卒業生 | 能登島ダイビングリゾート オーナー 学校法人日本航空学園 航友会会長 | 鎌村 実 <small>かまむら みのる</small> |
| 保護者 | 株式会社まちづくり輪島 専務取締役 学校法人日本航空学園 雄飛会輪島会長 | 九内 一也 <small>くない かずや</small> |
| 提携企業等の役職員 | 株式会社第一システムエン 지니어リング 企画管理室 課長 | 宮本 武志 <small>みやもと たけし</small> |
| 提携企業等の役職員 | 石川県工業試験場 博士 （工学） 機械金属部副部長（兼） 3D ものづくり推進プロジ ェクト室長 | 前川 満良 <small>まへかわ みつよし</small> |
| 提携企業等の役職員 | 能登空港ターミナルビル株 式会社 代表取締役専務 | 中本 利光 <small>なかもと としみつ</small> |

3 学校関係者評価委員会

日 時：平成28年9月9日（金）14：00～16：30

場 所：日本航空大学校2階 応接室

出席者：学校関係者評価委員会委員、及び本校事務局側教職員

4 評価対象期間

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

5 学校関係者評価委員会次第

(1) 開会

(2) 日本航空大学校副学長 矢野 善之挨拶

副学長の矢野より、職業実践専門課程の認定を受けたことを踏まえ、認定後も本校で実施している自己評価、及び学校関係者委員会での評価（外部評価）を踏まえた改革を推し進め、今後詳細が明らかにされる予定である専門職大学設立へ向けて動いていきたいこと、そのために昨年引き続き、各委員に対し各々の視点から評価をいただきたい旨の話があった。

(3) 学校関係者評価委員紹介

委員各自の紹介の後、中本利光氏が委員会の取りまとめ・進行役に推薦され、以降は式次第に基づきながら中本氏が進行した。

(4) 資料確認

評価委員会次第、委員名簿、「平成27年度 日本航空大学校 自己評価・自己点検集計表」、「学校関係者評価フォーム」、及び評価の各項目における必要な補助資料について確認がなされた。

(5) 議題

第1号議案 学科説明（教育活動報告）について

日本航空大学校 伊藤より、航空工学科の今年度の学科目標・方針についての説明、産学協同実践教育の実施報告、及び教育課程編成委員会を受けた指摘事項の改善状況について説明がなされた。

具体的には、出席率向上や退学者をなくすための取組み、基礎学力の向上や学生の健康管理など日常的に行っていることの説明、教員の資質向上の取組み、産学協同教育の状況などの説明が行われたものである。

第2号議案 「平成27年度 自己評価報告書」説明及び評価について

学校関係者評価委員による評価は、平成27年度自己評価の項目ごとに事務局から説明を行い、各委員から評価・意見をいただいた（詳細別途）

第3号議案 その他

専門職大学について、具体的な話が分かったら教えてもらいたい。

「平成 27 年度 自己評価報告書」説明及び評価

学校関係者評価委員会における評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
(評価点数は委員の平均値を掲載)

✦ 1 教育理念・目標

評価 4.0

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 教育理念については冊子化された学園の教材にしっかりと記述され、授業（道徳訓育教育）で取組みされており、これまでの実績を見ても高い社会適応性を求めた学校運営をされているのだと理解でき、十分にクリアしている事項だと思われる。
- ・ 学生が内定してから卒業するまで長い期間があるが、学園生活は長い人生の助走であると考え、最後まで意義のある学生生活を送らせていただきたい。
- ・ 産学協同教育を以前は4年生の後期に行っていたが、これを学年の初めの時期にずらした。これはやる気の面でいい効果が出ている。

✦ 2 学校運営

評価 3.8

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 若い教員を年々採用するに伴い、これまでは阿吽で通っていた業務調整がうまくいかななくなることがある、という問題が起こった。この世代間ギャップの問題に対し、新しく採用した電子決済システムが決裁者を明確にすることで、意思疎通をスムーズに改善したことは良かった。
- ・ 教員の生活の場の確保という問題の改善は進んでいるか？
 - 近隣市町村における寮在住教職員の分散を進めている。地域への定住が学園の発展につながるものであり、教職員が住みよい地域、学園に育てていきたい。
 - 情報システム化の進展について、教員用端末の Surface への入替、Microsoft アカウントの導入、学校内での無線 Lan 整備とインターネット配信による学習システム（高校のみ）活用などを確認し、今後も ICT 教育の整備を進めることとした。

✧ 3 教育活動

評価 3.5

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 授業評価について、高校のように研究授業を行ってもいいのではないかと
→ 航空整備科では2名体制のクロスオブザーブ形式をとると教育規程で定められている。オブザーブ形式の実施ができないかという意見も教員からあげられている。自分がどういう位置にいるのか、どういった成績なのかを客観的に知る機会は大切であり、自分だけよくなるのではなく、教員や学科の垣根を超えて評価をできる環境を作ることが大切なのではないか。
- ・ 「優れた教員の確保」について、生徒数の増減に柔軟に要件を満たす教員を充足することは難しいと思うが、学生が増加しても教育の質が落ちないように努めてもらいたい。
- ・ 先生方の能力開発研修の要望について学校側として、どの程度まで実現できるのか
→ 職業実践専門課程の申請時、また本年もたくさんの資格取得を果たしている。しかし、教員からは最新の航空技術の習得や機体に関する知識がまだまだ乏しいという前向きな意見をたくさん出してもらっており、学校としてもこうした要望を進めて参りたい。

✧ 4 学修成果

評価 3.7

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育の改善に活用されているかという項目で、何らかのフィードバックを実写化している部分はあるのか。
→ 卒業生を呼んでの講演や体験報告、内定者の報告会、就職先企業等への訪問（企業研修）、OBによる新人教育や、企業説明会へのOB参加→後輩への指導などの繋がりを持つようになり、また学生たちはLINEなども活用し、積極的に先輩からアドバイスをいただいている。
卒業した人たちの振り返りや情報が、学校教育に反映されるところまでいくとよい。
- ・ 有名大学を出た子でも簡単に離職することが多いし、長期的に見ないと精神的に弱い学生も多い。反面、この学園の卒業生は企業でも評判よく、打たれ強い者が多い。他の高校や大学学生と接しても違いを感じるので、このまま人間力を育ててほしい。
- ・ 「卒業生の社会的な活躍及び評価」について、卒業生の勤めている会社を長期的にモニターし、企業評価する必要がある。卒業生の意見をフィードバックする必要があると思う。

✧ 5 学生支援

評価 3.7

【評価・意見、学校側の改善項目】

卒業生への支援体制について、世間一般でみると卒業生への支援体制を行っている学校があるのか？ 卒業後の退職に対する支援（再就職支援）は必要である。ただ、現実問題として卒業生のケアまでするというのは、教員への負担が大きいのではないかな？

→ 同窓会的組織である航友会が卒業生の情報を得て、再就職を進める役割を果たしている。学校と航友会の密な連携がより効果的な支援体制となるよう今後も関係をしっかりともっていききたい。

✧ 6 教育環境

評価 3.8

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等」の整備について、長期休暇を活用した海外研修などの受け皿面、整備拡充も検討していただきたい。
- ・ 教育教材の導入について、単価や目的など制限がたくさんあるが、外国人を迎えるにあたっての補助金など、まだ狙えるようなものがありそう。航空学園が交流人口を拡大することは地域にとっても意味があることであり、いろんな補助金の引っ張り方を検討してはどうか。

✧ 7 学生の受け入れ募集

評価 4.0

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 学生が増加を続けているというのは、「この学校で良かった」という実感があるからではないか。口コミ入学、兄弟姉妹の入学、親子二世帯だけでなく最近は三世帯入学も出ている。航空教育をしっかりと続けていけば、教育の成果がたくさん伝わっていくだろう。

✧ 8 財務

評価 3.6

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 財務情報は昨年から公開されるようになったが、教員は教育に専念するという伝統がある。財務に関する教育を教員に行い、経済観念を兼ね合わせたバランスある教育者になること、コスト意識を持つこと、等々、財務のベースをしっかりと取り入れること

も必要ではないか。

➤ 9 法令等の遵守

評価 3.9

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 特に気になることはなし

➤ 10 社会貢献・地域貢献

評価 4.0

【評価・意見、学校側の改善項目】

- ・ 学生のボランティア活動が足りないという意見がある。個別で実施している学生がいる中で、学校全体や学年全体で行えるような地域行事やイベントに対するボランティア活動などは行えていない。大学ではボランティア活動が単位になり、就職活動のプラスにもなる。授業の単位を認める形でのボランティア活動を取り入れてはどうか？

➤ 11 国際交流

評価 3.9

- ・ 「学習成果が国内外で評価される取組」について、留学生が良い評価を得ているようだが、国外での取り組みが分かりにくい。
- ・ 近年になり、併設校の高校だけでなく大学校にも留学生が入学するようになり、日本の企業が留学生を人材として強く望むようになってきたが、これまで留学生の対応は高校の国際部が担ってきたため、留学生の対応が確立できていない(最近、確立しつつある)。担任教員が国際部と連携すれば十分フォローできる。
- ・ 「学習成果の評価」は、日本の企業に就職させることではないか。実際大学校では、就職実績という先輩のロコミにより、併設校留学生の入学者が増加している。